

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大戸小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 算数「数と計算」の領域の正答率が低い。<指導上の課題> 問題演習やドリル学習等に十分な時間が確保できていない。	⇒ タブレット学習(スタサポ・ドリルパーク等)を活用した取り組みを授業・朝学習・家庭学習で継続的に、基礎的・基本的な知識・技能の一層の充実を図る。(毎日実施)また、市学調における無回答率を下げる。(前年度比5%減)
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語・算数ともに、記述式問題の無回答率が高い。<指導上の課題> 主体的に自分の考えをもち、表現する授業場面が少ない。	⇒ 目的に応じた交流の型を設定し、授業の中で適切な意見の伝え合いができるようにする(単元の中で1回以上実施)児童が記述式の問題に取り組む際に、評価の観点を示し、自分の考えが書けるようにする。(毎回実施)また、オクリンクや共同編集作業を取り入れ共働的な学びの機会を確保する。

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の話し言葉と書き言葉の違いに気づく問題と、主語と述語の関係を捉える問題に課題がみられた。会話や作文における言葉遣いや、書かれている内容を正しく読み取ることへの理解が不十分であると考えられる。児童質問調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」における肯定的な回答の割合は95%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	国語の「話す・聞く」領域において課題がみられた。自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、目的や意図に応じた伝え方を考えたりする力が不十分であると考えられる。また、算数の「図形」領域で、多角形の面の数を求め、その理由を書く問題の正答率が低く、性質の理解や自分の考えを言葉で適切に伝える力に課題があると考えられる。児童質問調査の「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」における肯定的な回答の割合は84%で、他の項目に比べて低い割合だった。主体的に自分の考えを表現したり発表したりできる授業を今後も継続していく。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	タブレットを活用したドリル学習に取り組む活動を継続することで、タブレット学習が習慣化してきている。結果がすぐに確認できるため、自己の学びを振り返る機会にもなっている。	変更なし
思考・判断・表現	B	自分の考えを記述する活動で評価の観点を示すことで、具体的な課題や目的意識をもって書けるようになってきた。全国学力・学習状況調査における無回答率は市の平均を下回っていた。単元によってオクリンクや共同編集作業を行う学習を取り入れることで、共働的な学びにつなげることができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)